麻生すこやか通信 VOL.42

医療法人 札幌麻生脳神経外科病院 広報誌　2022年7月

コロナの行方 世界の行方

院長 飛驒 一利
日本脳神経外科専門医、脊髄外科指導医、日本脊髄外科学会理事長、日本脊髄障害医学会理事、脊髄ジャーナル編集委員

今年の梅雨は３週間以上早く開け、例年以上に暑い夏が始まりました。コロナ禍に見舞われてから３年目となりますが、オミクロン株での重症化率、死亡率が低いこと、さらにワクチン、治療薬の普及により、昨年より警戒感が薄れつつあります。各種イベントに人の流れが戻って来ており、海外との交流ももうすぐ始まるようです。

先日、日本脊髄外科学会が現地開催ということで、和歌山市で開催されました。２年前は半年遅れのWeb開催、昨年はHybrid開催でしたから、待ちに待った現地開催でした。学会も盛会で、各会場とも活発な議論が見られました。当院からも５名の医師が学会に参加してきましたが、3年ぶりにお会いする先生も多数おられ、コロナのために多くの人の繋がりが遮断されていると実感しました。

最近、外来にて感じることは、本来ならばもっと軽症で受診するはずの患者さまが、コロナのために相当我慢して受診していることです。病気のために痛みが我慢できなくなり、また歩行にかなり支障をきたしてから受診される患者さまがかなり多くみられます。このような患者さまに対しては迅速かつ適切に治療していくことが病院に求められていると思います。

一方、世界的な視野に立てば、限りある資源に対しての「持続可能な開発目標」SDGsが叫ばれ、地球の温暖化を如何に抑制するかが問題であったはずですが、予想もしないウクライナ戦争の勃発により世界の平和秩序が脅かされ、世界の分断化、そして様々な物資の不足が叫ばれています。無理無駄のない生活様式が必要に思います。物を大事にすることが地球を救うことに繋がるのではないでしょうか。

つい大上段に構えて見ましたが、私達に出来ることは限られております。病院としては安全でよりよい医療を提供することしかありません。

今後とも札幌麻生脳神経外科病院をどうぞよろしくお願いします。

脳疾患のトータルケア WEBセミナー

副院長／脳卒中センター長
中村 俊孝
脳神経外科専門医・脳卒中専門医
日本脳卒中の外科学会技術指導医

Report

血管内治療隆盛時代における脳動脈瘤直達手術の役割

2022年5月31日、当院会議室にて『脳疾患のトータルケアwebセミナー』が開催されました。当院の中村俊孝副院長が講演し、脳動脈瘤手術についてお話しました。

動脈瘤の治療に関して開頭クリッピング術の歴史は古く、1990年～2000年代においてすでに確実性の高い手術として確立されたものであると言っても過言ではありません。そのためこの10年間に新しい手術機器の革新がなされたなど目立った経緯はなく、古典的な技術がより現代風に洗練された期間であったとも言えます。

一方で、動脈瘤の治療に関して歴史が浅い血管内治療では、ここ10年間でのコイル・ステント・フローダイバーターなど様々な治療器材の新規開発や発展がありました。その恩恵を受け、脳動脈瘤の治療選択肢としてコイル塞栓術などの血管内治療が開頭クリッピングの割合を上回る現象が日本でも海外でも見られるようになってきました。

どちらの治療にもそれぞれに優れた面があります。特に動脈瘤の破裂によるくも膜下出血の治療としての開頭クリッピング術では確実に止血ができることは言うまでもなく、バイパス術を併用して複雑な形態の瘤の根治を目指すことができたり、瘤の周囲に溜まった出血成分を手術用顕微鏡で観察しながら洗浄除去することができたり、侵襲的な治療である分、一歩踏み込んだ完成度の高い治療と成り得ると考えています。

また今後の展望として、開頭クリッピング術も血管内治療も互いにただ競い合うだけではなく、社会のニーズに合わせて、互いに結束し、さらなる高みを目指す努力が必要ではないかとも考えています。

訪問看護ステーション

『訪問看護ステーションあざぶ』は、2019年に活動開始しました。現在、看護師3名、リハビリスタッフ2名の計5名で活動しています。おかげさまで、徐々に利用者様も増え、現在70名の方にご利用いただいております。訪問看護は利用されたことがない方にとって、なじみがないものだと思いますので、支援の一例を紹介させていただきます。

高齢の認知症の一人暮らしの方への支援例です。お薬カレンダーへの薬のセット。薬が飲めているかの確認。飲めていなければ他の方法を検討する。食事、水分が取れているか、血圧や脈、体重の測定、台所の様子など見て確認。脱水だと、ふらついたり、意識が変化したり、皮膚や口が乾燥するので注意して観察する。活動が低下している場合は、一緒に体操を実施したり、ベッドや椅子の高さの調整や、手すりの設置などを検討したりします。ご高齢の方は、ご自分で症状を自覚したり、訴えたりすることが難しい場合がありますので、調子のよい状態を知っておき、変化を見逃さないように心がけています。

私たちが支援のベースとして大切にしている事は、信頼関係です。先日、ステーション内で支援で大切にしている事を話し合う機会がありました。その中で、利用者様にとって、自分たちがこんな存在であることを大切にしようと再確認しましたので、ご紹介させていただきます。

利用者様にとって、
こんな存在であることを心がけています。
「話をきいてほしいなと思ってもらえる存在。」
「来てくれたら元気になったなと思える存在。」
「来てくれてたら、ホッとする存在。」
「医療者として頼りになる存在。」
「そこにいなくても、心の支えである存在。」

訪問していないときも、何かあったら相談できるから大丈夫と安心してもらえる、リハビリスタッフと約束したから自主トレーニングを頑張ろうと思ってもらえるなど、訪問していないときも心の支えとなれればいいなと思っております。地域の身近な医療者として貢献できるよう今後も精進してまいりますので、よろしくお願いいたします。

当院通院以外の患者さま、脳神経外科疾患以外の患者さまもたくさんご利用いただいています。

訪問看護ステーション所長
前田 美貴子

病気 糖尿病、高血圧、難病、がん、認知症など様々です。

支援内容 体調管理、薬の管理、排便コントロール、医療処置（点滴・在宅酸素など）
リハビリテーション、介護指導、療養相談、在宅看取り支援などです。

料金目安 介護保険で要介護で週1回、30～60分の訪問看護利用で、
1割負担の場合、1か月の自己負担額は5000円前後です。

お問合せ **訪問看護ステーションあざぶ　TEL.011-712-0085**
＊ご利用ご希望の方、話をきいてみたい方は、当ステーションへご連絡ください。

ドクターご紹介

Doctor introduction

医師　山﨑 和義

2022年4月に北海道大学病院より赴任させて頂きました山﨑和義と申します。十勝生まれの愛知県育ちです。北海道大学卒業後、釧路労災病院、手稲渓仁会病院などの勤務を経て、北海道大学病院で脊椎脊髄外科と機能外科と呼ばれる分野の診療を行い、脊髄損傷を中心とした再生医療研究にも従事しておりました。これまでの臨床・研究の経験を生かして、脊椎脊髄疾患に加えて脳卒中診療を中心とした救急診療などでも、地域住民のお役に立たせて頂けるよう、精進努力させて頂く所存ですので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

Profile

2008年北海道大学医学部卒。北海道大学病院で初期臨床研修終了後、北海道大学脳神経外科に入局。北海道大学病院を中心に釧路労災病院、手稲渓仁会病院などで後期研修を行い、2014年に脳神経外科専門医取得。2020年に北海道大学大学院博士課程で学位を取得。北海道大学病院脳神経外科助教を経て2022年4月より当院勤務。
【専門医・認定医】日本脳神経外科学会専門医、脊椎脊髄外科専門医、日本脊髄外科学会認定医、日本定位・機能神経外科学会機能的定位脳手術技術認定医

編集後記

今号では訪問看護ステーションについてご紹介致しました。高齢者で支援が必要な方、ご病気などでひとり暮らしに不安のある方、当院に通院されていない患者さまにもご利用いただいています。ぜひご参考になさってください。7月になり、北海道でも暑い日が続いています。感染対策に注意しながら、水分補給を心がけ、熱中症などにはくれぐれもお気をつけください。

医療法人
札幌麻生脳神経外科病院

〒065-0022 札幌市東区北22条東1丁目1-40
TEL 011-731-2321(代表) FAX 011-731-0559
ホームページ http://www.azabunougeka.or.jp

交通アクセス

- 地下鉄：南北線 北24条駅下車
  （2番・3番出口から徒歩約7分）
- 中央バス：「北21東1」下車、徒歩約2分
- 中央バス：「北24東1」下車、徒歩約2分

ホームページ

当院へのバス路線 中央バス

屯田線02・新琴似線09・あいの里・篠路線22
篠路駅前団地線36・ひまわり団地線28
花川南団地線14・花畔団地線16・元町線東70
石狩線・石狩線(トーメン団地行)・札厚線・札浜線(特急)

※お間違いないようご注意ください

- 往路と復路とで停留所の異なる路線があります。
  新琴似線09・花川南団地線14・花畔団地線16・石狩線・石狩線(トーメン団地行)
- バス停「北24条東1丁目」は旧石狩街道・石狩街道・宮の森北24条通の3カ所あります。